

アマルナ書簡とアナハラトの時代 —後期青銅器時代～初期鉄器時代—

エジプトのファラオ、トトモシス3世やアメンホテプ2世が、その遠征碑文でカナンの都市国家、アナハラトについて言及した紀元前15世紀、あるいは、テル・レヘシュから発信された可能性が指摘されているアマルナ書簡をアメンホテプ4世が残した紀元前14世紀は、パレスチナ地域の考古学的な時代区分では後期青銅器時代に該当する。ちょうど、この地域がエジプトの強い影響を受けつつも、一方で、地中海各地との国際的な交易や交流が著しく進展した時代でもあった。

エン・ドール考古学博物館に展示されているテル・レヘシュ遺跡からの採集資料にも、多数の後期青銅器時代の在地の土器のほか、エジプトの土器や碑文断片、地中海からの搬入土器が含まれていて、テル・レヘシュが地域を超えて物資や人々の集まる拠点的な場所であったことを物語っている。

しかしながら、日本隊による発掘調査では、テルの各所で後期青銅器時代の層位や遺物を確認しているものの、明確な建築遺構に関しては、A地区の「城門遺構」やD地区の大型建物以外は、断片的な調査にとどまっていた。核心に迫り、全体像を窺い知ることはできなかった。ただ、C地区における後期青銅器時代の累々とした層位の堆積は、この時代の居住密度の濃さを明確に表しているといえる（桑原）。



テル・レヘシュ遺跡で採集された土器
(エン・ドール考古学博物館)



テル下段斜面の層位
(C地区、後期青銅器時代の厚い堆積が見られる)

コラム 3 ガラス製管玉

B地区の北側グリッドから鮮やかなトルコ青と緑のガラス製管玉各1点が出土した。それは後期青銅器時代の層位にあたる、赤味のある柔らかな土を掘っていた時に、突如現れたのである。その美しさにしばらく見とれていたことを思い出す。イスラエルやエジプトを初め、古代の東地中海沿岸地域では、ガラスの生産と交易が盛んであった。

トルコの南西部沿岸近くから引き上げられたウルブルンの沈没船からは原ガラスのインゴットが多数発見されていることからこのことは窺える。このガラス製管玉はどこから来たのであろうか（巽）。



B地区出土のガラス玉